

好きこそものの上手なれ

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

激動

時は2001年夏、ホールには様々なタイプの機種が設置されていた。ノーマルAタイプ、AT機、爆裂AT機、人気はホールにより様々だったが、徐々に増えつつある爆裂マシンと徐々に減りつつあるノーマルAタイプ、優秀は明らかで確実に爆裂マシンが版図を拡大していた。それでも私は頑なにノーマルAタイプを打ち、ビタ押しなどを駆使しコトコトとメダルを稼いでいた。この頃は特に決まった機種は打つておらず、印象に残っているのは「乾杯RD(ネット)」くらいだ。この機種は設定6でも全く勝てないと思われていたが、私はそれほどでもなく、それどころか負けた記憶がほとんどない。さらに攻略法が発覚し、ボーナスが必ずスーパービッグで揃えることができたのだ(本来なら1・1の割合)。しかしその攻略法には欠点があり、ボーナスが成立してから揃えるまでに30ゲーム位は消化しなければいけない(早いときは良いけど、遅いときはかなりのコインロス)。他にもボーナスの7・8割をスーパーで揃えるという方法もあり、こちらは揃えるまでに数ゲーム程度の消化で済む。しかしこちらはシビアな箇所のビタ押しが必要とされ、さらには、確実にスーパービッグで揃うわけではなかったのだ。ノーマルビッグ2連荘とか来てしまった日にはストレス倍増であった。機械割りで考えると後者の攻略法が高かったし、時間があまりかからないということから私はいつも後者の方法を使用していた。通常時も面白く、リーチ目や小役ハズレ目、さらにそれに絡んだ液晶演出、そのすべてにおいて非常に完成度は高かった。世間ではそれほど人気の機種ではなかった

ネットの液晶搭載機。しかしその液晶演出はキャンセルできず、その点への不満の声が多数聞かれた。



が、私の周りのスロッターは、皆好んでこの機種を打ち込んでいた。

この頃に話題を呼んだのがもう1機種ある。それは同じくネットの「ブラックジャック777」だ。業界初のストック機能搭載マシンである。後のストック機と大きく異なる点で、「ストックはすべて放出させることができる」ということである。この機能は後のストック機時代に大きな影響を与えたのは疑う余地もないが、当時としては微妙な位置づけにあった。当時この機能を搭載した機種はそれほど登場せず、じわりじわりと少しずつ勢力を拡大してきた感じがある。そしてストック機として万人に支持され、その時代を切り開いたのが後に発売された「キングパルサー(山佐)」ではないだろうか? この機種がきっかけとなり、ホールにはAT機・ストック機が勢力を奪い合い、また「AT+ストック」などと複雑化され、爆裂化もさらに加速していくのであった。

引退

「獣王」、この機種が登場したとき、ふと脳裏をかすめた小さな不安。それが徐々に色濃くなり、日に日に募ったその不安は今まさに絶望へ変わろうとしていた。店内では爆裂マシンの島に次々と築かれる大きなメダルの山、その連荘回数を謳うマイクパフォーマンス。冷静に見ればその反面、延々とメダルランドにお金を投資する人の姿、両替機前で財布を広げため息をつく人の姿がある。この状況下では誰もそんなところに目が行くはずもない。むしろその「負け組」の後ろには、新たな投資家がずらりと列を成しているほどだ。一方、技術介入機のシマではいつもの顔ぶれ、そしてその顔ぶれも日に日に爆裂コーナーへ移行していった。パチスロメーカーからも技術介入機の発売はごく稀となり、そして「技術介入」の意味にも変化が生じてきていた。誰でも簡単にリプレイハズシが楽しめる簡易キングパルサー(山佐、2001年11月) シンプルな演出と度の過ぎない連荘で誰からも愛されたパウンドストック初搭載。



当押しで消化してみる、そうすると見慣れぬ目目にワクワクする。趣味なので、淡い機種にも手を出してみる、そうすると意外な面白さに気づく。趣味なので、どここの店でも適当に入ってみる、そうすると客が私

だけということもある。これは、面白い! ◆次回予告◆ 仕事から趣味に変えてしまったスロット。果たしてその行く末は? 次回「ストック時代」乞うご期待!

世代交代

長きに亘り記帳されてきたスロット収支表を久しぶりに開けてみました。表紙には手書きのコンドル・ゲッターマウス・ウルトラマンの絵が書いてあります。最初と最後の月を除いてはプラス収支。最高獲得枚数や、ワースト負け金額などを表にしたものもあります。ワースト1位は5万5千円ではっきりと記憶にあり、それは皮肉にも最後の月に負けたAT機です。ワースト2位は意外に少ない4万5千円で機種はコンドル。獲得枚数も意外に少なく、万枚超えはマシなラッキーだった一度。2位はノーマルAタイプのコンドルで9千枚。最高連勝記録は11連勝、月単位での最高勝率は82%(22戦18勝)。それほど驚くような記録ではありませんが、これでも私の自慢の記録です。これがあるからスロットの歴史を語る事ができるのですから。

現役時代にはいろいろな話を聞かせてもらったり、話したりしました。少し年配の方からは昔のスロットの話、代わりには私はその時代の機種の特徴やハズシ手順、機械割など、ありとあらゆるものを話した覚えがあります。つい最近では、ある店である若者たちに出会いました。この店の常連の子たちです

単ハズシ。配列上はハズシ不可能なのに、「制御」で外れてしまう。初めての機種を打ったとき私は配列を確認し、リプレイハズシをビタ押ししていた。隣に来た若者は狙っている様子はなく逆押しをするだけ。それでもリプレイは外れてしまう。聞くところから押すと、どこでも外れるらしい。これを技術介入というのだろうか? すれば得するリプレイハズシはもう既に存在せず、しなければ損をするリプレイハズシに変わっていた。

最後に、私はスロッターとして、人より特別長けているとは思っていない。知識ならS君に劣り、技術はWさんに、そして度胸や根性はN君に劣るだろう。でもほんの少し人より長けているとすれば、それはスロットへの愛情だったのかもしれない。それをもって、私が、一番の「回胴倒錯者」と皆は言うのだろうか。

その後・趣味編序章

仕事としてのスロットをやめる決心してから働き出すまで、さほど時間は掛からなかった。決して普通とは言いがたい職種ではあったが、真面目に働いていた。それでもスロットは辞められず、仕事の合間にちよくちよく打っていた。仕事から趣味に変わったパチスロ。趣味というものは何をやってもお金がかかるもの、それでも元々仕事でやっていたからなのか、小遣い程度なら毎月、着実に稼いでいた。趣味なので全開適

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

